

情報収集

気象情報や災害情報などを小まめに入手してください。

■ ほっとメール・ツイッター

台風や集中豪雨などのときの各種気象警報や、洪水や土砂崩れなどが発生したときの避難勧告準備情報や避難勧告などをお知らせします。利用は無料ですが通信料は利用者負担です。

ふじおかほっとメール

- ・パソコンで登録
→ <https://service.sugumail.com/fujioka/member/> から
- ・スマホなどで登録
→ 右 QR コードから



問い合わせ 総務課(☎402221)

藤岡市公式ツイッター

ツイッターで藤岡市を検索し、フォローしてください。右QRコードからも進めます。



問い合わせ 秘書課(☎402208)

■ 緊急速報メール

対象河川が氾濫する恐れのある場合や氾濫した場合に皆さんの携帯電話やスマートフォンに緊急速報メールを配信します。配信エリアは藤岡市全域です。この情報を活用し、住民の皆さんが自ら水害の危険性を察知し、自主的な避難に役立ててください。自動的に配信されるため、設定などは不要です。

対象河川

烏川・碓氷川・鑓川・神流川

対象地域

洪水、浸水の恐れが出た地域

その他

▷携帯電話などの基地局の関係により、配信エリア近郊の人にも届くことがあります▷携帯電話の電源が入っていない場合や圏外、通話中などの場合は受信することができません▷ご利用の機種により、緊急速報メールに対応していない場合があります

問い合わせ 高崎河川国道事務所
(☎027・345・6041)

風水害に備える



台風や集中豪雨などによる風水害が発生しやすい季節になりました。自分や家族の身を守るため、まずは自分の行動が必要です。いざという時のために日頃から防災について考えてみませんか。

問い合わせ 地域安全課(☎27444)

非常時持ち出し品

被災地まで支援物資が届くにはおおむね3日かかるといわれています。女性用品、赤ちゃん用品など、家族構成に合わせたものを準備してください。

非常食品 <input type="checkbox"/> 栄養補助食品・缶詰 <input type="checkbox"/> 飲料水 など	避難用品 <input type="checkbox"/> 懐中電灯 <input type="checkbox"/> 携帯ラジオ <input type="checkbox"/> ヘルメット・防災頭巾 など
生活用品 <input type="checkbox"/> 厚手の手袋・軍手 <input type="checkbox"/> 毛布 <input type="checkbox"/> 生理用品 <input type="checkbox"/> 携帯用トイレ <input type="checkbox"/> ライター・マッチ など	衣料品 <input type="checkbox"/> 下着・靴下 <input type="checkbox"/> 長袖・長ズボン <input type="checkbox"/> 防寒用ジャケット・雨具 など
貴重品類 <input type="checkbox"/> 現金(硬貨を含む) <input type="checkbox"/> 印鑑 <input type="checkbox"/> 預貯金通帳 <input type="checkbox"/> 保険証 など	救急用具 <input type="checkbox"/> 救急箱 <input type="checkbox"/> 持病の薬 <input type="checkbox"/> 処方箋の控え など



日頃からの点検

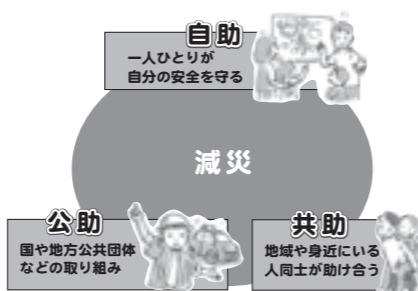
まずは地図などで自分たちの住んでいる位置を確認してください。家の周りで起こりそうな災害を確認し、どんなことに注意が必要か考えましょう。その後自分たちの避難場所に印を付け安全な避難経路を確認してください。予め避難場所での集合場所なども決めておくと、いざという時に迷わずに動くことができます。

避難するとき

次に非常時持出品の確認をしてください。賞味期限が近付いているものや乳幼児用品など家族構成に応じた入れ替え作業を行ってください。

大雨の時など、情報を集めているうちに危険を感じるがあったり、避難勧告などが発令されたりしたら落ち着いて周囲の状況を確認し避難してください。想定していた避難場所や経路も、災害の状況に応じて使えなくなる可能性もあります。近所の人と声を掛け合うなど助け合って臨機応変に避難してください。

自助・共助・公助



6400人以上の死者・行方不明者を出した「阪神淡路大震災」では地震によって倒壊した建物から救出さ

れ生き延びることができた人の8割は家族や近所の人によって救出された人でした。これは倒壊建物からの救助と地震によって発生した火災の消火活動を行政が同時に行う必要があったため行政機能がまひしてしまつたからです。

大規模な災害が発生したときには行政の対応(公助)だけでは限界があり、早期にすべての災害現場に対応することが難しくなります。

自分の身は自分で守り(自助)、普段から顔を合わせている近隣のひとと互いに協力し合いながら乗り切るこ(共助)が必要です。この「自助」「共助」「公助」が機能することにより被災

害の軽減を図ることができます。特に大事なことは「自助」の取り組みです。災害の恐れがあるときは自主的に避難し、自分の安全を確保してから周りの人と助け合ってください。災害時はパニック状態になることが予想されます。いざという時すぐに避難できるよう、あらかじめ避難経路や避難場所などを家族と確認しておくことと安心です。また普段から地域住民同士がつながりを持ち、有事の際はお互いに助け合える環境を作っておくといひでしょう。災害はいつ起こるか分かりません。だからこそ日頃から備えておくことが必要です。